

報告文献別一覧表(2006/1/1~2006/3/31)

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	CCDR 2005; 31(19): 197-205	カナダでのA型肝炎ウイルス感染状況。A型肝炎ウイルス暴露前予防, 暴露後予防およびアウトブレイク管理, 疫学, 結論などが記載。
2	A型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(34)	2004年におけるHealth Protection Agency Centre for InfectionsへのA型ウイルス肝炎に関する報告は627例で, 2003年と比較して36%減少した。大部分(51%)は15~44才の成人で66%が男性であった。
3	A型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(41)	英国Dorset州において男性と性交渉を持つ男性におけるA型肝炎のアウトブレイクが確認された。
4	A型肝炎	ProMed 20050916-0040	Nizhniy Novgorod地域で, A型肝炎患者増加中。ロシア保健局により感染源が特定され, 流行を制圧のため市民に, 衛生習慣を順守し, 飲料水を煮沸消毒するよう勧告した。
5	A型肝炎	ProMed 20051203-0080	2005年9月17日~24日, トルコに旅行して, 4人がA型肝炎に感染, 10月12日~20日の間に発病。感染源は, リゾート施設内の開放型コンテナのアイスクリームとドライフルーツと考えられ, 遺伝子型解析で1B型と確認された。
6	A型肝炎	ProMed 20060111-0066	ニュージーランドChristchurchでA型肝炎流行。生の食物が流行の原因の可能性。
7	A型肝炎	Transfusion 2005; 45: 1037-1038	ドイツのワクチン非接種の血液ドナー2人が, エジプトのHAVリスク以外の地域への旅行から帰国後, PCRによるスクリーニング検査でHAV感染が確認された。このことより, HAVハイリスク地区だけでなくリスク地域と認められなかった地域への非ワクチン接種の観光客にHAVリスクがあることを警告している。輸血によるHAV感染防止のためには, HAV感染リスクの高い地域に滞在直後の血液ドナーに関してはHAV-NATスクリーニング検査の実施又は一時的な供血禁止が必要である。今回の事例の感染源は特定されていないが, 宿泊したホテルの1つがヨーロッパ人旅行者のHAV感染300例以上の感染源であることが後に判明した。
8	B型肝炎	CDC/MMWR 2005; 54(RR16): 1-23	B型肝炎ウイルス感染症の拡大を阻止するための戦略, 更新事項, B型肝炎予防法, 予防接種スケジュールとその結果, ワクチンの安全性などについて記載。定期的な幼児および思春期での予防接種が非常に効果的であったことが判明。
9	B型肝炎	CDC/NCID 2005年7月14日 http://www.cdc.gov/ncidod/diseases/hepatitis/spotlights/glucose.htm	糖尿病患者へのケア手順を対象にした具体的な感染管理アドバイス(糖尿病看護手順と技術, 手の衛生管理状態と手袋, 医学的管理, トレーニングと監督)を掲載。
10	B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日 藤巻ら	移植前HBsAg陰性, HBsAb陽性で, 同種造血幹細胞移植をうけた患者6例のうち1例が, 移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
11	C型肝炎	Ann Intern Med 2005; 142: 898-902	2000年3月から2001年12月までに米国ネブラスカ州東部のクリニックを訪れた患者で医療行為によるHCV感染疑いを調査した結果。発生はシリンジの再利用によると考えられた。
12	C型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(50)	英国Health Protection Agencyが発行。イングランドにおけるC型肝炎の有病率, サーベイランスと調査, 認識の増加, 静注薬物使用者(IDUs)に焦点を当てた予防策などが記載。
13	C型肝炎	HPS Weekly Report 2005; 39(2005/49): 267	2005年12月13日, 感染した血液製剤に関連したC型肝炎に関する情報が発表された。2005年2月, スコットランド保健相が, 血友病協会のスコットランド代表との会議までに資料を作成するよう依頼。情報はScottish Executive Health Departmentへの連絡により入手可能。

No.	感染症(PT)	出典	概要
14	C型肝炎	J Med Virol 2005; 77: 70-76	1997年から2000年の期間で、フランスの血液透析におけるHCV感染発生率の前向き調査の結果。1323名中9名の患者が同じユニットで同シフト間の透析中に感染患者からHCV感染したことが明らかになった。
15	C型肝炎	Transplantation 2005; 80: 320-325	1992年から2003年で肺移植にあたりHBcAb(+)またはHCV-Ab(+)の移植片を移植された患者の調査をしたところ、HBcAb(+)レシピエント群29名はウイルス性肝炎発症もなく全員が生きているが、HCV-Ab(+)レシピエント群3名は全員からHCV-RNAが検出され、うち1名は22ヶ月で肝不全のため死亡した。肺移植後のHCV-Ab(+)移植片のウイルス感染リスクは高いかもしれない。
16	E型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(45)	英国保健省はWelsh National Public Health Serviceらと共同で、HEV流行地域への旅行に無関係なHEV感染患者の地域的、臨床的、分子疫学的特徴に関する研究を行った。1996年から2003年の間にE型肝炎と血清学的に診断された186例中、外国旅行に関係していない感染者は17例で、全て英国のブタのHEV株、遺伝子型3型に感染していた。本所見からE型肝炎はイングランドおよびウェールズに固有の型であることが示唆された。
17	E型肝炎	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第38週	日本でのE型肝炎発生状況。E型肝炎は輸入感染症と考えられていたが、現在症例の大半が国内感染であり、E型肝炎ウイルスはわが国にも土着していることが示唆。
18	E型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 3042-3048	韓国でヒトから分離したHEVは、ブタのHEVと92.9-99.2%のヌクレオチド相同性があった。また日本株およびUS株とアミノ酸配列で97.9-99.6%の相同性があった。韓国の人口の11.9%は抗HEVIgGを持っていると考えられ、韓国でHEV感染が広がる可能性が示唆された。
19	E型肝炎	ProMed 20050823-0110	東部チャドの村でE型肝炎流行により少なくとも50名が死亡。
20	HIV感染	AABB Weekly Report 2005; 11(42)	2003年1月から2004年6月にかけて中国で41歳の男性が売血をし約18名がHIVに感染、うち3名が死亡した。
21	HIV感染	CDC Media Relations 2005年11月17日 http://www.cdc.gov/od/oc/media/pressrel/fs051117.htm	米国33州における2001年～2004年のHIV感染症集計。HIV感染症157252例。CDCは州別、人種別、生活習慣別のHIV感染症の動向を分析。
22	HIV感染	CDC Media Relations 2005年12月1日 http://www.cdc.gov/od/oc/media/pressrel/r051201.htm	AIDSが流行して25年近くが経ち、米国はHIVに対する戦いにおいて複雑な課題に向き合い続けている。米国のHIV感染者は100万人以上、世界的では約4000万人。米国HIV感染者の1/4は感染に気づいておらず、毎年推定4万人の新規感染が発生。最新のCDC調査により、HIV母子感染の予防は劇的に成功しつつある。
23	HIV感染	CDC/MMWR 2005; 54(RR09): 1-17	HIVの職業的伝播のリスク、暴露後の予防治療に対する抗レトロウイルス剤、抗レトロウイルス剤の毒性および薬物相互作用、抗レトロウイルス剤に対する耐性、米国の病院における職業的HIV暴露管理と暴露後の予防治療の実態、HIV暴露後治療などに関するガイドラインが記載。
24	HIV感染	CDC/MMWR Weekly 2005; 54(46): 1177	2003年、カンボジアBanteay Meanchey県保健当局は、CDCおよび米Agency for International Development (USAID)と共同で、HIV感染者の結核健診増進のためのパイロット計画を開始した。本計画の最初の14ヵ月間のデータの、CDCによる分析と評価結果についての概要報告。
25	HIV感染	CDC/MMWR Weekly 2005; 54(46): 1188	1987年-2003年の米国における男女別のHIV感染症の年齢調整死亡率(10万人当たり)に関する情報が記載されている。1999年-2003年に、男性ではわずかではあるがHIV/AIDS死亡率の着実な低下がみられ、女性における死亡率には変化がみられなかった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
26	HIV感染	CDR Weekly 2005; 15(43)	2005年9月末までの英国における新規HIV感染診断症例の感染経路, 年令, 診断年, 感染地域表などが記載されている。HIV診断累計総数74977件。
27	HIV感染	CDR Weekly 2005; 15(47)	世界エイズデー(12月1日)に先立って発行されたUnited Nations Programme on HIV/AIDS (UNAIDS)およびWHOによる共同報告では, 世界的なHIVの流行の規模および影響が増加していることおよびこれらの傾向を反転させようとする努力における介入の重要性および可能性が強調されている。
28	HIV感染	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており, 2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
29	HIV感染	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは, NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり, Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が, 定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
30	HIV感染	NHS National Services Scotland http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/infectious/inftransmitted.html	『Setting the Scene』(スコットランドにおける性感染症(HIV感染症を含む)ー2004年, 2005年11月発行)および『Mapping the Issues』(英国におけるHIV感染症および他の性感染症ー2005年, 2005年11月発行)が発行された。これらの報告書はウェブサイトで閲覧可能。
31	HIV感染	ProMed 2005年7月26日	情報源: Science Daily, United Press International, 7月26日。新型ヒト免疫不全ウイルス(HIV)株の感染源である患者を特定。コネチカット州Norwalkの開業医Dr. Blickは, この患者CT01は2種類の薬剤でコントロールされ安定しているため, 多剤耐性株の出現と警戒された先の警報は大きすぎた可能性を指摘。
32	HIV感染	SFGate.com 2005年12月3日	中国で, HIV感染との認識がなかった男性が, 2003年1月~2004年6月に15回売血を行った。HIVに感染した血液(明らかに1回も検査されていない)は, 輸血を必要とした患者25名に投与された。
33	HIV感染	WHO http://www.who.int/mediacentre/news/releases/2005/un aids_who/en/index.html	HIV伝播は依然として増加。流行を減速させるためより一層のHIV予防の取り組みが必要と提言。成人でのHIV感染率は, 特定の国々でコンドームの使用増加などの感染予防行動の変化が重要な役目を果たして低減。ケニア, ジンバブエ, カリブ海地域の数カ国は, ここ数年HIV感染率低減。2005年新規感染症例は500万例。全世界では推定4030万人がHIV感染者として生活。東欧・中央アジア・東アジア, サハラ以南のアフリカで増加。
34	HIV感染	カナダ Public Health Agency http://www.phac-aspc.gc.ca/publicat/aids-sida/haic-vsac0605/pdf/haic-vsac0605.pdf	カナダにおけるHIV/AIDS関連統計などについて記載。また暴露カテゴリー別(血液/血液製剤暴露等)のHIV検査陽性報告数および割合などについて記載。

No.	感染症(PT)	出典	概要
35	HIV感染	カナダ Public Health Agency 2005年9月30日 http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb3905_e.html	LA郡Department of Health Servicesによる調査の結果から、成人用映画業界従事者における職業的に獲得したHIV感染症例4例について記載。成人用映画業界におけるHIVおよびSTD予防措置の改善の必要性を強調。
36	HIV感染	英国保健省 Publications 2005年7月28日	1998年に発行したガイダンスの差し替えおよび患者への告知に関する最新のアドバイス。HIV感染のリスクの現在の評価、血液媒介ウイルス感染症管理および暴露傾向にある処置に関する一般原則などが掲載。
37	HIV感染	財団法人血液製剤調査機構News (海外編) 2005年7月29日	2005年7月27日、FDAは「HIV-1とHCVのためのNAT:検査、製剤の処置および供血禁止と再開」と題する業界向けガイダンス(案)を発表。
38	HIV感染	朝鮮日報 2005年9月6日	韓国でHIV陽性ドナーの血液が輸血やアルブミン・グロブリンの製造(現在両方とも市場にある)に利用。政府当局は韓国赤十字は問題に気づいていながら厚生省に未報告。公衆は可能性のある危険について通知されていないと述べた。
39	HIV感染	CDR Weekly 2005; 15(51)	2004年は全献血血液につきHIV抗体、C型肝炎抗体、ヒトT細胞白血病ウイルス抗体、B型肝炎ウイルス表面抗原(HBsAg)、HCV RNA、梅毒抗体に対する検査実施。一部の血液はB型肝炎コア抗原に対する抗体検査なども実施。2004年に、英イングランド・ウェールズの献血のうち227件がウイルス感染マーカー陽性。45%がHCV関連、42%がHBV関連。イングランド・ウェールズの献血血液におけるHbsAg、抗HIV抗体の年間感染率は安定し、ヨーロッパに比べると低い。
40	HIV感染、C型肝炎	FDA/CBER Guidance for Industry July 2005	2005年7月、米国食品薬品局(FDA)生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、遡及調査に関するガイダンス案を公表した。HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合リエントリーする。
41	HIV感染、C型肝炎	オーストラリア Department of Health and Ageing/ TGA 2006年1月3日 http://www.tga.gov.au/docs/pdf/tgo/tgo74.pdf	Therapeutic Goods Order No. 74:血液成分に関する基準。血液・血液成分は1980年-1996年に英国に累計6か月以上滞在または居住者をドナーとした血液・血液成分を製造してはいけない、血液・血液成分はNATを用いた検査でHIV-1、HCV陰性である血液からのみ製造すること等などについて記載。
42	HIV感染、C型肝炎	オーストラリア Department of Health and Ageing/ TGA/TGO No. 73 2005年6月8日 http://www.tga.gov.au/docs/html/tgo/tgo73.htm	臍帯血由来の造血前駆細胞は国際基準(第2版、2001年7月付け)の要件に合致している必要があること、母親の血液サンプルが臍帯血提供直後と180日後以降HIV-1とHCV陰性である場合に製造可。
43	HTLV	AABB Weekly Report 2005; 11(35)	英国国立血液サービス(NBS)は2002年にHTLVの検査を開始した。米国はそれより何年も前からHTLVの検査を行っていた。
44	HTLV	AIDS Res Hum Retroviruses 2005; 21: 521-526	ブラジル都市内の一族でのHTLV-2の水平感染及び垂直感染について。初発症例は献血血液のスクリーニングで検出された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
45	HTLV	血液製剤調査機構 Today's News (海外編) 2005年9月	1995年HTLV-1を含む輸血を受けた英国の手術患者が75万ポンドを支給された。国立血液サービス(NBS)は2002年にHTLVの検査を開始し、米国はその数年前から検査実施。手術後、HTLV関連脊髄障害が発現し、症状により離職。
46	HTLV	臨床血液 2005; 46: 952	2004年2月、ATLリンパ腫型再発期にATLA陽性HLA一致同胞より骨髄移植を施行された後、同年7月にATL急性型を発症した男性の報告事例。ATL細胞はドナー由来であった。
47	ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/nctdod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
48	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
49	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649	2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。
50	ウエストナイルウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry June 2005 http://www.fda.gov/cber/gdlns/wnvguid.pdf	2005年6月米国食品薬品局(FDA)生物製剤評価研究センター(CBER)は、輸血によるウエストナイルウイルス伝播リスクに対する手段として供血者から「供血後の疾患の報告」または「受血者におけるWNV感染の報告」に基づく成分の回収隔離に関する改訂勧告を提案した。
53	BSE	FDA News; P05-68, 2005年10月4日	2005年10月4日、FDAは、BSEから消費者をより一層守るため、追加の「狂牛病」セーフガードを提案した。生後30ヶ月以上のウシの脳および脊髄、検査を受けていない全年齢のウシの脳および脊髄、脳および脊髄が除去されていない検査されていないウシの全ての部位などを、使用することを禁止するよう動物飼料規制を改正することを提案している。
54	BSE	ProMed 20050729-0030	米国で3例目のBSE発生疑いの牛が発現。EUではTSE規制のを見直し。日本での発生原因についての発表内容。
55	BSE	ProMed 20050804-0120	8月3日、アイオワ州のU.S. Department of Agriculture's National Veterinary Services Laboratories (NVSL) は、7月27日の中間検査の結果、BSE陰性であると発表。英国 WeybridgeにあるVeterinary Laboratories Agencyでの検査結果も陰性。検査続行中。
56	BSE	USDA Statement Release No.0336.05 2005年8月30日 http://usda.gov	米農務省(USDA)の動物衛生検査部およびFDAは2005年6月にBSE検査で陽性となったウシに関する調査を終了した。調査期間中、このウシが飼育されていた同群のウシ計67頭をBSE検査したが全て陰性であった。現在までに米国では過去14ヶ月間に45万頭以上が検査され、2頭のみがBSE陽性と確認された。
57	BSE	Pro MED 20060218-0030	クロアチア政府は国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。確定診断のため、ウシ(5歳)の脳検体が英国の研究所に送られた。
58	BSE	ProMed 20051120-0050	フォークランド諸島で、異型スクレイピー(atypical scrapie)と呼ばれる病型と確認された、初のスクレイピー症例が発生。

No.	感染症(PT)	出典	概要
59	BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国でBSE疑いの牛が検査でBSE確定診断された。当該牛はテキサス州で生育したおよそ12才の雌牛。加工用として処理施設に搬送時に死亡していた。
60	BSE	Vet Rec 2005; 157: 206	6月齢の雌ヒツジ30頭にBSEウシの脳5gを経口投与し、6ヶ月後に、同月齢のBSE脳非投与のヒツジ20頭と、一つの群れとして生活させ、自然交配させ、出産させた。投与群では30頭のうち24頭が投与後655日から1056日の間に死亡した。2003年に生まれた2頭の子羊はBSEで死亡した。子羊の母親2頭は臨床症状を呈した。ヒツジにおいてBSEが、子宮内や出産前後に伝播しうることが初めて確認された。
61	BSE	オーストラリア Department of Health and Ageing/TGA 2005 年9月21日 http://www.tga.gov.au/docs/pdf/euguide/emea/041001rev2.pdf	導入されるEUガイドライン(ヒトおよび動物用医薬品を介した伝達性海綿状脳症(TSE)原因物質のリスクを最小限にするためのガイダンス覚書(EMEA/410/01 Rev.2))が追加され、更新されている。
62	クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005; 11(41)	2005年7月、英国のCJD incident Panelによると英国の輸血を受けた約50名がvCJDに曝露した可能性があり、まもなく医師の診断を受けるよう通知される予定。
63	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(45)	2004年9月～2005年2月に、手術用具を介してCJDへ曝露した可能性のある事例38件がCJD Incidents Panelに報告されたこと、National Anonymous Tonsil Archiveなどについて記載されている。
64	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	CJD Incidents Panel(CJD事例委員会)の年次報告第4版、およびフレームワーク文書発表。2003年9月～2004年8月に54件が報告。20件は輸血が関係。医療行為を介したCJDへの曝露の可能性の管理に関する委員会のアドバイスの基準を記述している。
65	クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 39(2005/32): 181	1995年～2005年7月29日までの英国におけるクロイツフェルト病の確定例および可能性例の調査表：vCJD確定例死亡総数は150例。
66	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2005; 86: 2393-2399	新規洗浄処理、ラジオ波ガスープラズマ法によりヒトにおける全プリオン疾患の伝播機会を減少させる可能性が示された。
67	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322- 331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
68	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed 20051109- 0040	英国海綿状脳症諮問委員会10月19日声明文。「BSEがヒトの伝染性海綿状脳症から由来したという仮説」に関する議論の要約。ProNAS掲載の新しいスクレイピー病原体は、耐性プリオン蛋白(PrP) 遺伝子型のヒツジ個体に感染しうると論文の紹介。News@nature.com, 11月3日号に、ヒツジの炎症のある乳腺には、異常プリオン蛋白が確認された報告意義を解説した記事など。

No.	感染症(PT)	出典	概要
69	クロイツフェルト・ヤコブ病	カナダ Public Health Agency http://www.phac-aspc.gc.ca/hcai-iamss/cjd-mcj/cjdss-ssmcj/stats_e.html	2005年11月1日現在、CJD-SSに報告されたCJD疑い症例照会数(2005年:55例)、CJD死亡数(2005年:散発性2例、計2例、1994年~2005年:計259例)、州ごとのCJD症例数、CJD-SSに報告されたCJDの死亡率。
70	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0310 2005年9月5日	2005年9月2日現在の2005年のCJD診断確定例および可能性例の総死亡例数-41(散発例35、医源性1、家族性2、GSS(Gerstmann-Straussler-Scheinker syndrome)1、vCJD2)
71	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Releases 2005/0389 2005年11月7日	2005年11月4日現在のクロイツフェルト・ヤコブ病月間統計:vCJD確定例および可能性例の総数(死亡例および生存例):158例。
72	クロイツフェルト・ヤコブ病	血液製剤調査機構 Today's News (海外編) 2005年8月	Idaho Department of Health and Welfareは自然発生したクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)症例と思われるクラスターの調査中。
73	クロイツフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2005; 167: 1033-1042	ヒトCaco-2/TC7腸細胞を種々のプリオン株および感染した脳ホモジネートとともに培養した。BSE脳ホモジネートとともに培養すると、感染性ウシプリオンはエンドサイトーシスにより数分以内に腸細胞に取り込まれた。この取り込みは抗37 kDa/67 kDaラミニン受容体(LRP/LR)抗体の前処理により減少したことから、LRP/LRが感染性ウシプリオン受容体と同一とされた。
74	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
75	クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2005年10月11日 http://www.fda.gov/cber/advisory/tse/tse1005.htm	2005年10月31日開催予定の伝達性海綿状脳症(TSE)諮問委員会の議題などについて記載。
76	クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2005年10月31日 http://www.fda.gov/cber/advisory/tse/tse1005.htm	米FDAのTSE諮問委員会は10月31日に会合を開き、ヒト血漿製剤における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)のリスク評価について議論した。委員会はTSE感染のリスク評価に役立つ研究に関する採決を行い、感染性プリオン濾過に用いられるフィルター血液製剤での異常プリオンタンパクの除去はできるが、十分ではないと考えられ、FDAの表示案を承認した。
77	クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2005; 39: 189	英国保健省はvCJD罹患率を割り出すために、保存されている虫垂および扁桃検体を検査した。その結果、vCJD罹患率は10-30歳で100万人当たり46-692例であると見積られた。この値は臨床例からの推定値よりはるかに大きかった。
78	クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report 2005; 39: 198	「TSEロードマップ」(各種の伝達性海綿状脳症(TSEs)が食物連鎖に入るのを防ぐために計画された規制の将来的に起こりうる改正の概要を記載)が欧州委員会によって発表された。

No.	感染症(PT)	出典	概要
79	クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
80	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed 20050906-0090	1) 英国保健省vCJD病月例統計—2005年9月2日。2) エジンバラ大学の研究チームが手術器具から異常プリオンを除去するより効果的な方法を開発。3) スペイン保健省はスペインでのvCJD患者発見を報告した。4) BSEの根本的な感染源として、70年代に南アジアから輸入された肥料および飼料用の原料の一部に、プリオン病に感染していた遺体の人骨やヒトの組織が含まれていた可能性。BSEの複数の専門家からは疑念提示。
81	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED 20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
82	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Releases 2005/0337 2005年10月3日	死亡症例数、生存中のvCJD可能性例数、vCJD確定例および可能性例の総数(死亡例および生存例)。9月30日現在の2005年のCJD総死亡例数—48。
83	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Gateway reference 5238 2005年7月 http://www.dh.gov.uk/assetRoot/04/11/53/12/04115312.pdf	ドナーが変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の潜伏期にある場合に、血液および血液製剤のレシピエントが感染しているリスクを評価する現在の分析法についての専門家向け文書が掲載されている。
84	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0256 2005年7月20日	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病を後で発症した3名に対し供血した約100名に、献血、組織および臓器提供を行わず、手術などの場合に特別な措置を講ずるよう医療専門家に通知することを要請した。これにより伝播リスクを低減する。
85	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
86	インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5～6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
87	インフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第27週	インフルエンザの定点医療機関からの発生報告数は、第20週以降減少が続いていたが、第27週になって712(定点あたり報告数0.15)と増加した。
88	インフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第35週	インフルエンザの定点医療機関からの定点あたりの発生報告数は、0.024と2005年第1週以降では最小を記録している。例年第35～36週前後に最低となることが多く、本年も例年と同様に発生数が最も減少する時期と考えられる。しかしながら、2005年第35週の定点あたり報告数は、過去5年間の同時期と比較すると最も高い値となっている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
89	インフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2006年第4週	2006年第4週のインフルエンザの定点あたり報告数は32.4(報告数151,878例)となり増加が続いている。分離報告の殆どはA型(99.7%)である。流行は西日本から東日本に広がりつつある。今後患者数が増加する可能性があり、注意を要する。
90	インフルエンザ	Science 2005; 310: 28-29	米国の研究チームは、1918年に大流行したインフルエンザ(スペイン風邪)で死亡した患者の肺組織から1918ウイルスを復活させた。1918ウイルスはマウスおよびニワトリ胚で致死性を示し、ヒト気管支上皮細胞で高成長型表現型を示した。1918ウイルスの増殖機構を調べることにより、新しい抗ウイルス薬の開発に役立つであろう。
91	トリインフルエンザ	CDC 2005年11月7日 http://www.cdc.gov/flu/avian/outbreaks/asia.htm	WHO鳥インフルエンザH5N1型の更新情報。2003年~05年のアジア、ヨーロッパにおけるH5N1型鳥インフルエンザ感染の動物およびヒトでの進展状況。動物では家禽、渡り鳥、ブタ、ネコ科動物での感染が確認されている。
92	トリインフルエンザ	CDC 2006年1月10日 http://www.cdc.gov/flu	2003年末から2004年の初めにアジアの8カ国(カンボジア、中国、インドネシア、日本、ラオス、韓国、タイ、ベトナム)において家禽で鳥インフルエンザH5N1が流行し、100万羽以上の鳥が死亡または処分された。その後、マレーシア、モンゴル、ロシア、トルコ、ルーマニア、ウクライナでも家禽での鳥インフルエンザH5N1感染が報告されている。1997年以降、鳥インフルエンザウイルスのヒトでの感染例が報告されている。2006年1月7日現在、鳥インフルエンザH5N1のヒトでの感染例は、カンボジア、中国、インドネシア、タイ、ベトナム、トルコで報告され、WHOによると2004年1月以降で140例以上になる。現在、H5N1ワクチンが開発中である。
93	トリインフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2006年第2週	トルコの国立インフルエンザセンターは新たにトリインフルエンザ患者を確認し、2006年1月16日時点で患者数は20例(内死亡4例)となった。ウイルス解析により、ウイルスの遺伝子配列に3箇所の変異を確認した。この変異のうちの少なくとも2箇所はウイルスがヒトへの感染しやすいように働く可能性があるとして指摘している。
94	トリインフルエンザ	IDWR JAPAN (感染症週報) 2006年第3週	2003年に始まった一連のH5N1インフルエンザの国別確定症例数と死亡数。感染地域が徐々に拡大し、ヒトへの感染報告数も徐々に増加している。
95	トリインフルエンザ	J Infect Dis 2005; 192: 1318-1322	1999年から2003年に養鶏場労働者から集めた血清検体983例を分析し、イタリアで流行したインフルエンザの原因となったトリインフルエンザウイルスについて調べた。低病原性トリインフルエンザH7N3ウイルスが流行した2003年に集められた検体の3.8%で抗H7N3抗体および高病原性インフルエンザH7N1に対する抗体である抗H7N1抗体の両方が検出された。
96	トリインフルエンザ	J Virol 2005; 79: 11788-11800	2004年にアジアでヒトから分離されたトリインフルエンザH5N1ウイルスは、マウスおよびフェレットで高い致死率を示したが、トリから分離されたH5N1ウイルスは高い致死率を示さなかった。フェレットにおいて、2004年ヒト分離H5N1ウイルスは、1997年ヒト分離H5N1ウイルスと比べ、症状の急速な悪化、高い致死率を示した。
97	トリインフルエンザ	Lancet 2006; 367: 84	中国本土で初めて、A型トリインフルエンザウイルス(H5N1)のヒト感染症例が確認された。2005年10月8日に発症した12歳少女は、9日後に死亡した。弟の9歳少年は発症したが、回復した。村では家禽が9月から死に始めており、患者の家でも飼っていたことから、家禽からのウイルス感染とみられる。

No.	感染症(PT)	出典	概要
98	トリインフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。
99	トリインフルエンザ	OIE Disease Information 18(31) 2005年8月5日 http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_59.HTM	インドネシアにおける高病原性トリインフルエンザに関するFollow-up report(2005年6月24日から8月1日まで)。2005年6月24日から7月7日に医療施設を受診した肺炎を伴う家族3例の情報を入手した。3例とも死亡した。患者の近隣地域のアヒル、ブタなどを検査したところ、トリインフルエンザ陽性例が検出された。
100	トリインフルエンザ	ProMed 20050725-0020	2005年7月25日、インドネシア当局は同国でのH5N1型インフルエンザによる初のヒト死亡例をうけ、犠牲者の居住していた近隣のブタの処分を決定した。
101	トリインフルエンザ	ProMed 20051224-0094	2005年12月15日現在、中国の30の省および自治区のうち9つの地区で、さらにニワトリ、アヒル、ガチョウにおけるインフルエンザ流行が続いている。政府は1年間に飼育される140億全ての家禽類にワクチン接種を行うことを決めた。
102	トリインフルエンザ	ProMed 20051224-0094	中国で30の省および自治区のうち11月中に8地区、12月に1地区の家禽で鳥インフルエンザの流行が続いている。2005年に中国では21の流行があり、144624羽の鳥が死亡し、2110万羽が処分された。WHOによるとヒトへの感染は5例あり、2例が死亡した。
103	トリインフルエンザ	Science 2005; 309: 1206	2005年5月4日、中国西部の青海省青海湖の鳥の島で数羽のトリが死んでいるのが発見され、6月末までに1000羽以上の野鳥が罹患した。病理所見はH5N1型トリインフルエンザに感染した家禽と同じであり、複数のH5N1型トリインフルエンザウイルスが分離され、香港2004年分離株と密接な関連が認められた。渡り鳥のH5N1型トリインフルエンザ感染は潜在的な世界的脅威である。
104	トリインフルエンザ	The Australian online 2005年10月20日 http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page	インドネシアで、感染症病院の医師が、男性1名とその息子1名、ならびに幼児1名がトリインフルエンザ感染の疑いがあると発表した。同国でのトリインフルエンザによる死亡例は公式には3例であるが、H5N1ウイルスによると疑われる死亡例は、少なくともさらに6例はいる。
105	トリインフルエンザ	Virology 2005; 339: 101-109	2003年に中国から日本に輸入されたアヒル肉から、遺伝型が特異なH5N1型インフルエンザウイルスが分離された。この分離株はニワトリには高病原性を示したが、マウスには示さなかった。しかし、一度このウイルスに感染させたマウスの脳から分離したウイルスは、アミノ酸置換が起こっており、病原性を増加させた。
106	トリインフルエンザ	WHO 2005年11月17日 http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/	中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。インドネシア衛生省は、さらに2例のH5N1型トリインフルエンザ感染者を確定した。2例とも危篤である。
107	トリインフルエンザ	WHO 2006年1月5日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_05/en/	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
108	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2005年7月21日	インドネシアでトリインフルエンザによるはじめての死亡例が確定した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
109	トリインフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html	中国衛生省はH5N1型トリインフルエンザウイルスによるヒト感染例をさらに1例確定した。この患者は四川省在住の35歳女性で、家禽選別者として働いていたが、発症9日目に死亡した。この症例は中国における9例目の確定診断例で、そのうち6例が死亡している。
110	トリインフルエンザ	鶏病研究会報 2005; 41(増刊号): 9-16	アジア各国で発生している高病原性トリインフルエンザの現時点での防疫対策は感染個体の殺処分と移動制限による封じ込めである。しかし、ゲノム解読、ナノテクノロジー等による研究の積み重ねは、確実にインフルエンザ対策に貢献していることは間違いないと考えられる。
111	トリインフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県内の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
112	トリインフルエンザ	獣医畜産新報 2005; 1011: 849-852	現在アジアを汚染しているH5N1ウイルスは、1996年に中国広東省のガチョウ農場で最初に発見されて以来、この10年間に多くの動物種に対して病原性を高め、また宿主域を広めている。ニワトリ、水鳥(カモ、サギなど)、留鳥(カラス、スズメなど)、哺乳類(マウス、ネコ、ヒトなど)に対する病原性の推移について述べた。
113	パルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	パルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
114	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
115	マイコプラズマ肺炎	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第39週	マイコプラズマ肺炎は通年性に発生がみられるが、過去5年間では冬季にピークが見られ、またこの3年間では夏季にも小さなピークがみられている。2005年では過去5年間の同時期と比較して、常にその平均値を超える状態が続いており、第39週現在の累積報告数は、2000年以降では最高値となっている。
116	マイコプラズマ肺炎	IDWR JAPAN (感染症週報) 2005年第40週	マイコプラズマ肺炎の第40週の定点あたり報告数は2週連続して増加し、0.37となったが2005年第1週以降では最高値となり、また、過去6年間の同週との比較でも最も多かった。
117	マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年11月24日から実施されていたCDCによるドミニカ共和国アルタグラシアとトウアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告が解除されていた。
118	マラリア	J Trop Pediatr 2005; 51: 219-22	ナイジェリアの先天性マラリアの臨床的発現率、胎盤中のマラリア寄生虫の有病率についての調査結果。胎盤中のマラリアと先天性マラリアには強い相関関係がみられた。新生児では臨床症状はあまり発現しなかった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
119	リケッチア症	第54回日本感染症学会 会東日本地方会総会 2005年10月27日	急性Q熱54例に関して、患者背景、推定感染経路、臨床像を解析した。病型は肺炎28例、気管支炎6例、上気道炎12例、肝炎4例、不明熱3例、リンパ節炎1例で、死亡例はなかった。発症前に動物と接触した例は76%で、イヌ、ネコが多数を占めていたが、ウシ、ウサギ、シカ、ニワトリ、インコ、野鳥との接触例がみられた。
120	レプトスピラ症	第88回日本細菌学会 関東支部総会 一般 演題4-2	動物取り扱い業者の従業員2名がレプトスピラ症と診断され、原因究明を行った。その結果、取り扱っていた輸入アメリカモモンガが原因であった。
121	レンサ球菌感染	IDWR JAPAN (感染症 週報) 2005年第32週	中国で流行しているブタレンサ球菌感染は8月5日以降新規患者はないと中国衛生部は報告している。ブタのインフルエンザウイルスとニパウイルスの可能性は検査により否定されている。
122	レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report Japan 2005年第32週	2005年6月頃から発生している中国でのブタレンサ球菌流行について。現時点では中国衛生部によると215名がブタ-ヒト感染し、うち39名が死亡していると報告している。これまでの調査ではヒト-ヒト感染の証拠は見られていない。今回の流行が最近の流行と比較してこれほど大規模であったのかについては更なる調査を必要とする。
123	レンサ球菌感染	OIE Disease Information 18(36) 2005年9月9日	中国四川省で647頭のブタがStreptococcus suis感染で死亡した。この流行病は2005年6月後半に始まり、7月20日頃ピークとなり、その後急速に減少した。抗生物質の投与、衛生状態の改善、ワクチン接種などが流行病を抑えるのに有効であった。
124	レンサ球菌感染	Science 2005; 309: 1308-1309	WHOが中国でのブタ由来の感染症について調査した。中国衛生部の報告によると中国四川省で流行した感染症は2005年7月中旬がピークで、同年8月5日以降は新たな感染例はない。ブタは600頭以上が死亡し、ヒトでは感染例204例のうち38例が死亡した。ほぼ全ての患者が、病気のブタとの接触があった。ヒトとブタの検体を調べたところ、Streptococcus suis serotype 2の存在が確認され、その他の細菌やウイルスは認められなかった。当局によるとヒトからヒトへの伝播は見られなかった。WHOによると、新しい変異型が毒性の強い2型 serotypeかは今のところ明らかではない。
125	レンサ球菌感染	Weekly epidemiological record 2005; 80: 269-276 http://www.who.int/wer	中国衛生部は2005年8月3日に、ブタでのStreptococcus suis流行に関連した疾病がヒトで206例見られたと報告した。そのうち38例が死亡し、18例が重篤である。全例が四川省で発生し、そこでは同時期にブタでStreptococcus suis感染が流行していた。中国の疫学者によると、ヒトでの最初の発症は2005年の6月末であった。患者のほとんどが農家の成人男性であり、病気や死んだブタに接触したことが感染の原因とみられる。この件に関してWHOはさらに詳しく調査中である。
126	レンサ球菌感染	カナダ Public Health Agency 2005年10月 28日 http://www.phac- aspc.gc.ca/bid-	2005年10月24日、香港の健康保護センターはStreptococcus suisと確定診断された症例報告を受けた。最近の旅行歴がない43歳男性で、10月13日に入院し、同日死亡した。2005年の香港における12番目の感染例である。
127	ロタウイルス陽性	Virus Res 2005; 113: 73-80	2004年2月にハンガリーで、1つの群れのウサギ60羽が急性腸炎で死亡した。その原因を詳しく調べたところ、新しい家兎ロタウイルスP[22]が同定された。
128	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1848-1853	げっ歯類がハンタウイルスの感染源と考えられていたが、それ以外の感染ルートがあることが示唆された。2002年にアルゼンチンで発生したハンタウイルス肺症候群(HPS)の患者13例について分析した。その結果、前兆期またはその後の短期間に、ウイルスのヒトからヒトへの伝播が起こったと考えられた。
129	ウイルス感染	FDA/CBER 2005年10 月25日 http://www.fda.gov/c ber/advisory/bp/bp11 05.htm	11月3日-4日開催予定のBlood Products Advisory Committee (BPAC) の会合予告。

No.	感染症(PT)	出典	概要
130	ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キヤサナル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。
131	ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
132	ウイルス感染	Reuters Foudation Alert Net, Newsdesk 2005年8月22日	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540例の小児の検体において17例の病因であった。小児において重症呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
133	ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
134	感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。
135	感染	HPS Weekly Report 2005; 39(2005/43): 239	Health Protection AgencyなどとHPSは「Shooting Up—英国の注射による薬物使用者における感染症(第3版)」を発表。B型・C型肝炎に加え、A型肝炎、創傷ボツリヌスおよび破傷風などのアウトブレイクが見られることなどを記載。
136	感染	MHRA Safety nformation 2005年11月24日	米国の組織調達会社BioMedical Tissue Servicesがヒト死体組織ドナーを不適切にスクリーニングし、記録も残していないことが明らかとなる。問題の組織は回収されたが、少数の製品は英国に輸出。全例が追跡可能な少数の患者に移植されていた。その追跡調査の詳細。
137	感染	Pediatr Infect Dis J 2005; 24: 744-745	2例の超未熟児が先天性Candida glabrata感染により死亡した。胎盤と臍帯には肉眼で見えるカンジダ結節はなかった。Candida albicansではない種によるカンジダ感染は壊死性の病巣をあまり産生しないため、肉眼で見える結節がないからといってカンジダ感染を除外するべきではない。
138	感染	ProMed 20050719-0010	2005年の前半中に小児4名を含む70名のライム病(新種ボレリアによる感染症)に感染したとUdmurtiya共和国感染症病院当局が発表した。一方、小児2名を含むダニ媒介性脳炎患者17名が同共和国内で2005年前半に報告された。
139	感染	ProMed 20051012-0010	南アフリカで46歳男性がクリミア・コンゴ出血熱に感染し死亡。ウシ屠殺の際に感染したと考えられる。
140	感染	ProMed 20060108-0060	コンゴの西Kasai州で病死したブタを食べた80人以上が死亡した。肉不足のため、行政がこれを止めることは実質的に不可能である。汚染ブタは高熱と下痢で、数時間で死亡した。原因は不明である。

No.	感染症(PT)	出典	概要
141	クローン病	World J Microbiol Biotechnol 2005; 21: 1175-1179	渡航歴のない中国のクローン病患者の腸組織にMycobacterium avium subspecies paratuberculosisが存在するかを調べた。手術の際に得られた腸組織をPCRにより調べたところ、クローン病患者13例中9例(69.2%)および癌患者14例中2例(14.3%)が本菌に陽性であり、クローン病は本菌と有意な関連があることが示された。中国では牛乳の生産と消費が増加しており、クローン病も増加していることから、乳牛および牛乳における本菌の調査が必要である。
142	クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
143	コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。
144	サルモネラ	ProMed 20051002-0040	米国ウイスコンシン州Walworth郡健康局は、同郡で発生したサルモネラ感染症12例の患者のうち7例が農産物物品評会に参加していたと発表した。ブタ小屋にいたことが原因と考えられたが、ブタの糞からはサルモネラ菌は検出されなかった。患者は全員回復した。
145	サルモネラ	Z Gastroenterol 2005; 43: 707-713	2004年の春から夏にかけて、ドイツの多くの州で、Salmonella enterica serovar Givellによる感染症が流行した。感染源や感染の特徴を明らかにするために調査を行った。その結果、生のブタ挽肉の消費と本感染症と相関があることが示された。ブタ肉から分離された菌株は患者から分離されたものと一致した。
146	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(2) 2006年1月12日 http://www.oie.int/en/info/hebdo/AIS_36 .	米国における小水疱性口内炎に関するFollow-up report No.27 (2005年12月19日から31日まで)。新規アウトブレイクは、コロラド州デルタ郡の農場で、ウシにおける疑い例は222例、発症例は3例である。
147	エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
148	デング熱	Blood 2005; 106(11): Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅斑、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
149	デング熱	ProMed 20050819-0020	2005年ベトナム政府より、過去1ヶ月間に南部のメコンデルタ地方でデング熱患者5500名を確認し、今年の総患者数は15500名以上となり、うち17名が死亡と発表。
150	デング熱	ProMed 2005090-0020	シカポール当局によると2005年9月時点でデング熱患者が増加しており、島での最高に達した2004年同時期に比べて2倍近い数である。8名の死亡も報告されている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
151	寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のパベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清を <i>Babesia microti</i> 抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRにより <i>Babesia microti</i> に陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
152	結核	IASR 2005; 26: 225	ニューヨーク市で2001~2004年に報告された結核4524例のうち、35例がウシ型結核菌であり、うち1例は死亡例であった。聞き取り調査を行った23例中19例にメキシコ産チーズの食歴があった。現在、メキシコ産チーズについてウシ型結核菌の検査を行っている。
153	細菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020例中108例(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。
154	細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	<i>Bartonella alsatica</i> は野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
155	細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。分離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグララーゼ陰性ブドウ球菌が原因とされた。
156	細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌は <i>Mycobacterium mageritense</i> と同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
157	脳症	J Virol 2005; 79: 11858-11863	伝達性ミンク脳症(TME)HY株またはDY株神経外接種後の神経侵入におけるリンパ細網系組織の役割をハムスターを用いて調べた。腹腔内接種後、DY株は脾臓やリンパ節では検出されず、腹腔やリンパ節への接種または経口投与後は臨床症状は観察されなかったが、舌内接種後プリオン病を発症し、舌および舌を神経支配する脳幹神経核で検出された。しかし、脾臓やリンパ節では検出されなかった。一方、HY株はこれらのすべての接種経路により感染した。
158	ボツリヌス中毒	IASR 2006; 27: 46-48	2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ボツリヌス毒素とE型ボツリヌス産生性 <i>Clostridium butyricum</i> が検出され、本菌による乳児ボツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めての <i>C. butyricum</i> による乳児ボツリヌス症と考えられる。
159	炭疽	ProMed 20050808-0020	中国で12名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
160	炭疽	ProMED 20050906-0060 ProMED 20050902-0050	ロシアのRostov地域で今年(2005年)3例目のブタ炭疽症例が発見された。このブタは炭疽ワクチン未接種であった。生物学的検査、顕微鏡検査、細菌学検査によって、炭疽菌感染と確定された。
161	炭疽	ProMed 20050917-0060	米国モンタナ州北東部の牧場で炭疽によりウシ37頭が死亡した。問題の牧場は2005年9月15日現在隔離されている。
162	炭疽	ProMED 20051121-0020	ジンバブエで炭疽によりヒト3名、ウシ130頭が死亡した。